

えりも町沿岸で越冬するオオハクチョウについて

中岡利泰 1)

はじめに

えりも町は北海道南東部に位置し、北海道の背骨といわれる日高山脈が太平洋にせり出す位置にある(図. 1)。えりも町内における鳥類の確認種数は、258種が確認されている(中岡ら, 2007)。

本稿では、えりも町沿岸において越冬するオオハクチョウ (*Cygnus Cygnus*) の越冬数の推移および越冬特性について報告する。

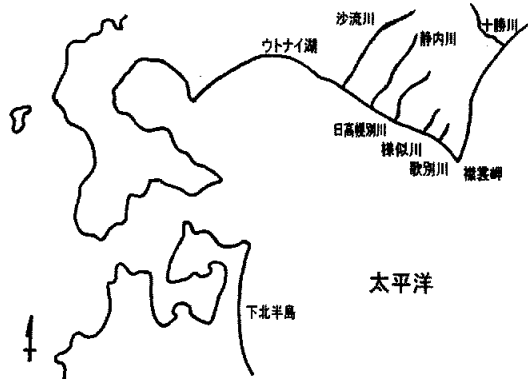


図 1. 調査地の位置図

調査方法および調査地

1993~2006 年度の越冬期間 (14 年間) である 11 月末から 3 月末まで、1 週間に 1 回の割合で、主にえりも町西海岸において、おおよそ午前 8 時から 8 時 30 分の間にオオハクチョウをカウントし記録し、天候、風向、風力、波浪を記録した。

また、オオハクチョウの南下・北上の飛行を確認した場合は随時記録した。

なお、カウントには 8 倍の双眼鏡および 30 倍の望遠鏡を用いた。

調査地は、えりも町の海岸線約 53.8km のうち、

襟裳岬以西の海岸線、油駒・東洋・南東洋・エンドモ・三本岩・歌露・菊水・東歌別・歌別川河口・コロップ・新浜海岸において実施した。また、東海岸百人浜に位置する悲恋沼など他地区において確認された場合も記録した。

また、えりも町におけるオオハクチョウの越冬状況を他地域と比較するため、北海道日高管内の他町の越冬地、様似町様似川、浦河町日高幌別川、向別川、元浦川、新ひだか町三石舞川、同町静内静内川、古川、新冠町新冠川において、適時越冬数を数え記録した。

結果と考察

1. 渡りについて

襟裳岬からえりも町本町において確認できたオオハクチョウの南下北上飛行の記録を表 1. に示した。

1-1. 南下飛行について

1996 年から 2006 年の間に、南下飛行は 20 例確認され、もっとも早い確認は 1998 年 10 月 20 日、もっとも遅い確認は 1996 年 12 月 31 日であった。百人浜に位置する悲恋沼は、オオハクチョウの南下飛行時、季節風の西風が強い際の待避地として利用されている。

南下飛行コースとしては、えりも町東海岸を広尾方面から襟裳岬を目指し、東洋の自衛隊レーダー基地 (自衛隊基地) の上空近くを飛行し西海岸へ出る (襟裳岬先端まで行かない) コース、襟裳岬先端手前えりも岬集落付近で西海岸へ出るコース、襟裳岬先端を迂回して西海岸を海岸線に沿って飛行する

1) えりも町郷土資料館 〒058-0203 北海道幌泉郡えりも町字新浜 207 番地 E-mail : erimomus@cocoa.ocn.ne.jp

表1. えりも町におけるオオハクチョウの南下北上飛行記録


南下飛行記録							20 例
年	月	日	時間	観察地	数	飛行方向	
1996	11	29	8:40	歌別	A6	日高海岸西へ	
1996	12	8	8:25	航空自衛隊	A6	日高海岸西へ	
1996	12	21	20:20	襟裳岬	数不明	日高海岸西へ	
1996	12	31		襟裳岬沖	A25	南の沖へ	
1997	10	26		悲恋沼	A8J3	滞在	
1998	10	20		悲恋沼	A25	滞在	
1998	11	13		航空自衛隊	A7	日高海岸西へ	
1998	11	27		航空自衛隊	A4	百人浜→東洋	
1999	12	21	8時すぎ	東洋	6	日高海岸西へ	
2000	11	19		襟裳岬	30	襟裳岬周って西海岸へ	
2003	11	27		襟裳岬	42	通過	
2003	12	10	17:40	襟裳岬	30+	東海岸から西海岸へ	
2003	12	10	21:45	襟裳岬	不明	方向不明・鳴きながら飛行	
2005	11	9	6:50	襟裳岬	20	東海岸から西海岸へ	
2005	11	9	8:25	新浜	4	日高海岸西へ	
2005	11	13		百人浜沖	25	百人浜から襟裳岬方面へ	
2006	11	9		悲恋沼	A69J	滞在	
2006	11	14	9時ごろ	襟裳岬	A2J3	襟裳岬から西海岸へ	
2006	11	14	13時ごろ	襟裳岬	12	襟裳岬から西海岸へ	
2006	12	12		百人浜	50	百人浜から襟裳岬方面へ	

図2. 油駒 (睡眠)

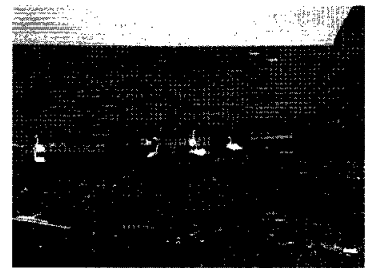


図3. 南東洋 (給水)

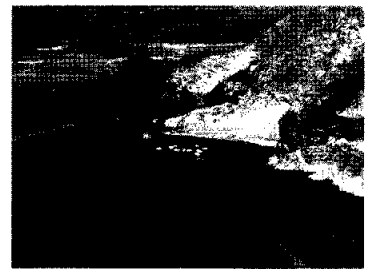


図4. 三本岩 (時化を避ける)

北上飛行記録							11 例
年	月	日	時間	観察地	数	飛行方向	
1997	3	20	14:30	本町	50	襟裳岬へ	
1997	4	4	17:32	本町	20+	襟裳岬へ	
1998	3	13	11:15	襟裳岬	45	百人浜方面東へ	
1998	3	13	13:45	新浜	15	追分峠へ	
1998	3	24	11:15	襟裳岬	17	襟裳岬を回り込み東へ	
1998	3	31	9:15	本町	24	歌別方面へ	
1998	4	9	9:40	航空自衛隊	10+	西海岸から東へ	
1998	4	9	12:00	百人浜	16+	百人浜を東へ	
1999	4	3	10時ごろ	新浜	36	襟裳岬へ	
1999	4	18		襟裳岬	33	百人浜方面東へ	
2000	4	2		新浜	20	襟裳岬へ	
2004	3	8		襟裳岬	8	百人浜から東へ	
2004	3	16		百人浜	9	百人浜を東へ	
2004	3	16		百人浜の沼	A2J3	滞在	

図5. 歌露 (索餌)



図6. 歌別川河口 (休息)

* A: 成鳥、J: 亜成鳥

コース、襟裳岬先端付近から目視では確認できない本州下北半島を目指しているのか太平洋の沖合西南西の水平線へ向うコース、の4コースが確認できた。

襟裳岬周辺から下北半島へ向うコースは、季節風が弱い天候の良い日に確認されている。

また、えりも町西海岸で確認された飛行群はいずれも隣町様似町方面へ飛行している。

1-2. 北上飛行について

1997年から2003年の間に、北上飛行は14例確認され、もっとも早い確認は2004年3月8日、もっとも遅い確認は1999年4月18日であった。

北上の際には、本町新浜地区から追分峠方面へコース、西海岸線を襟裳岬方面へ向うコースの2コースが確認されている。襟裳岬、追分峠、百人浜から海岸線を沿って広尾十勝方面へ向かうことが確認できた。

2. 日高管内における飛行コースについて

えりも地域以外の日高管内においてオオハクチョウが南下または北上するコースとしては、浦河町を流れる日高幌別川沿いから日高山脈、新ひだか町静内川から日高山脈、日高町平取町沙流川から日高山脈のコースを確認している。それぞれの河川の周辺には、畑、田んぼ、採草地、放牧地が広がっており、索餌に適していると考えられる。

3. 滞留地とその利用について

えりも町の西海岸線で越冬するオオハクチョウの滞留地およびその特徴について述べる。えりも町は冬期間、北西の季節風が強く吹きつけ、海岸が時化ることが特徴であり、時化による波浪がオオハクチョウの越冬、滞留地に影響を与えていると考えられる。ここでは利用度の高い8地点についてのみ述べる。

1) 油駒 (図2.)

東洋漁港がある入江であり、漁港防波堤の南側に、小沢が流入する砂利浜である。入江と防波堤により季節風が弱くなり、波浪も比較的弱められる。オオハクチョウは波打ち際の砂利上で休息し、小沢の水を給水している。厳寒期、小沢の水量が少ない場合、沢水は凍結するが、伏流水から給水している。

大時化で、エンドモが利用しにくい場合に比較的良好に確認される。

2) 南東洋 (図3.)

油駒の北側にある入江、砂利浜に小沢が流れこみ、厳寒期にも凍結することはない。地形的に季節風が直接あたらないが、波浪が打ちつけることがある。

大時化で、エンドモが利用しにくい場合に確認される。

3) 東洋

南東洋から崖を一つ周った地点である。砂利浜に小沢が流れ込み、厳寒期には凍結する。地形的に季節風、波浪が弱められる。

大時化で、エンドモが利用しにくい場合に確認される。

4) エンドモ

町内においてオオハクチョウの最大越冬数が確認される地である。

海に突き出た小さな崎の陰に位置する。砂利浜に小沢が流れ込み、厳寒期にも凍結することはない。波打ち際から50mほどのところに岩礁があり、季節風により発生した波浪が砂利浜に直接打ちつけるのを防いでいる。砂利浜から前述の岩礁の間は、大潮の干潮時には岩礁が露出し、オオハクチョウが餌とするスガモ (*Phyllospadix iwatensis*) が多く生育している。オオハクチョウは、休息、給水、索餌に利用している。

満潮時の大時化時には、油駒・東洋・南東洋・三本岩などに移動していると考えられる。

5) 三本岩 (図4.)

浅い入江であるが、海岸段丘の崖が海に落ち込んでいる。崖に囲まれた砂浜は季節風と波浪の影響を受けることはないが、沢はなく、休息または時化がおさまるのを待つのに利用している。また、約150m離れたコンブ漁船用斜路脇の沢が流入する砂浜も季節風を避けることができ、給水、休憩に利用する。

大時化で、エンドモが利用しにくい場合に確認される。

6) 歌露 (図5.)

なだらかな海岸線であり、小川が流れ込んでいるが、季節風と波浪の影響を比較的受ける地形である。

7) 菊水

浅い入江に、砂利浜が点在し、小沢が流入し、休息と給水に利用される。砂利浜は季節風と波浪の影響を受けない地形にある。また、やや離れた磯にはスガモが繁茂する。そこには浜や沢はなく、季節風と波浪の影響を受けるが、休息する浜から水面を移動し、索餌している。

8) 東歌別

海岸段丘が海まで延び、段丘下の磯に岩礁が点在し、スガモが生育する。干潮時には砂利浜ができ、小沢が流入する場所では給水も見られる。季節風と波浪の影響を受けるため、索餌は穏やかな天候時に行われる。

歌別川河口で確認される越冬群が、索餌に飛来することを確認している。

9) 歌別川河口 (図6.)

歌別川の河口は、川幅約15m、波の影響で打ち上げられた砂利が、河口の一部をふさぎ、川水がゆったりと流れている。季節風が吹きつけるが、休息できる岸もある。

河口だけでは餌量が不足なので、沿岸へ索餌移動し、ねぐらの利用をしていると考えられる。

3. 索餌について

えりも町の西海岸線で越冬するオオハクチョウはスガモ (*Phyllospadix iwatensis*) を索餌している。スガモは海岸線の潮間帯に生息する被子植物単子葉植物アマモ科の植物である (三浦, 1999)。オオハクチョウは海が穏やかな場所、索餌可能な水深に生息するスガモを索餌している。水面で逆立ちし、首を伸ばし索餌することもある。干潮時にはより水深の深いところに生息するスガモを索餌する。

歌別川河口では、岸に生えるヨシの根 (水中に伸びたもの) を索餌している。また、橋の上から観察していると、接近してくる個体も多く、他地域で餌付けに慣れた個体が、越冬のため飛来していると推測された。

油駒では、漁業者が浜に捨てた野菜くずの中からダイコンの皮を選択的に索餌していた (2002年1月13日)。

また、歌別川河口では、遡上して死亡し、頭部と背骨だけになったシロザケ (*Oncorhynchus keta*) をくわえる幼鳥を確認しているが、エサ資源として食しているのか、遊び行動であるか不明である。

4. 確認数の変化について

1993年～2006年のえりも町西海岸におけるオオハクチョウの越冬数を表2、図7. に示した。

97年以前は合計の最大数は50羽以上であったが、98年以降、越冬数の最大値は、多くとも40羽となり、越冬初期から越冬後期まで全体的に越冬数が減少していることが明らかになった。

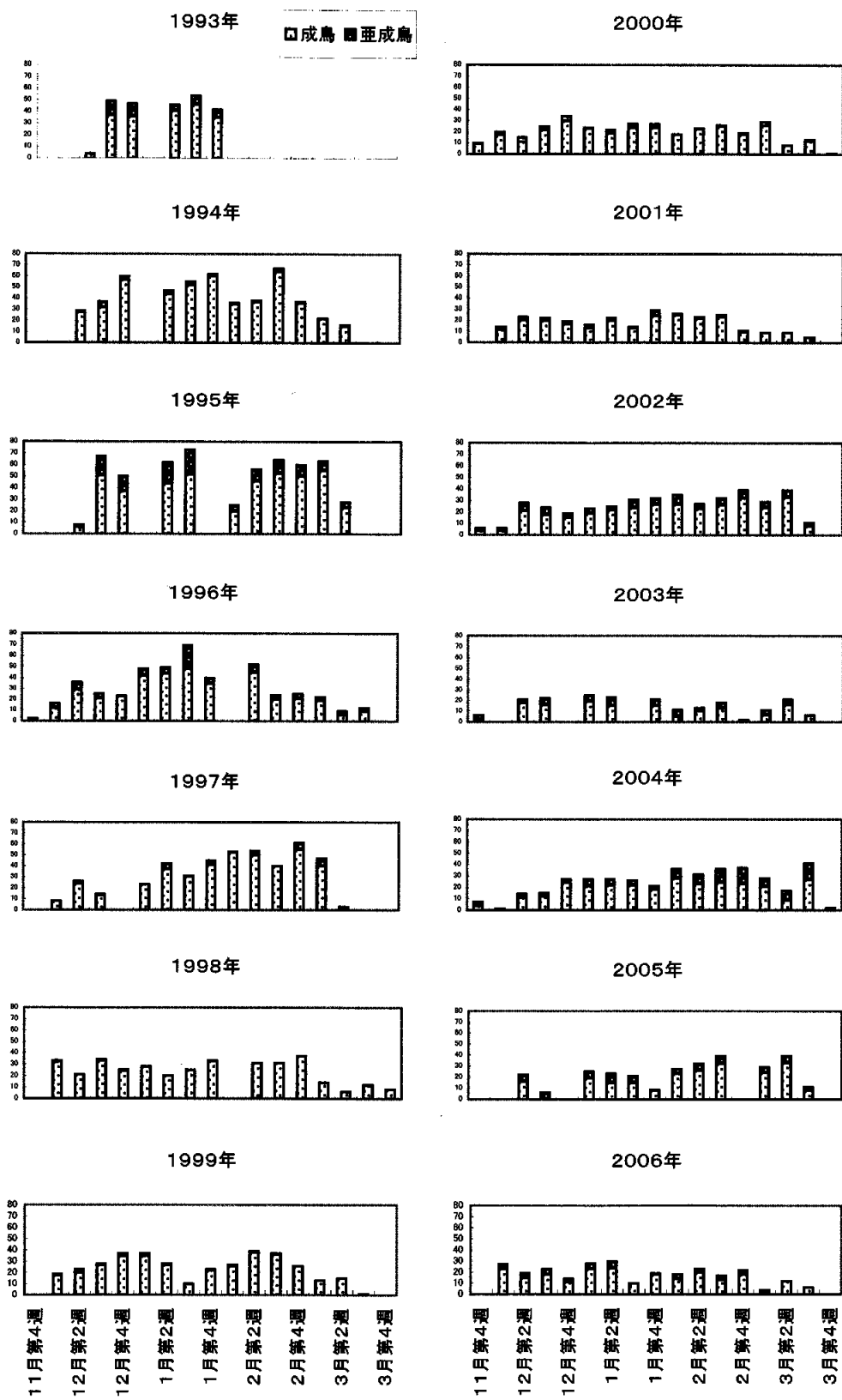
また、94年および97年～2001年は幼鳥の越冬数が少なかった。

確認数の最大値が確認できる時期は、1月第2週～4週の南下飛行の最終時期、または、2月第2週～4週の北上が始まる時期であった。このことから、えりも西海岸で確認されるオオハクチョウは必ずしも一冬中滞在するのではなく、南下北上の際に羽

表2. えりも町におけるオオハクチョウの越冬数(1993年～2006年)

	11月第4週	12月第1週	12月第2週	12月第3週	12月第4週	1月第1週	1月第2週	1月第3週	1月第4週	2月第1週	2月第2週	2月第3週	2月第4週	3月第1週	3月第2週	3月第3週	3月第4週
1993		12月13日	12月20日	12月27日	1月3日	1月10日	1月17日	1月24日	1月31日	2月7日	2月14日	2月21日	2月28日	3月5日	3月12日	3月19日	3月26日
成鳥		4	4	37	36	41	46	35									
亜成鳥		0	12	11	8	5	7										
合計		4	49	47	44	46	52	42									
1994		12月14日	12月21日	12月28日	1月4日	1月11日	1月18日	1月25日	2月1日	2月8日	2月15日	2月22日	2月29日	3月5日	3月12日	3月19日	3月26日
成鳥		28	32	57	44	44	52	60	35	37	64	36	22	15			
亜成鳥		1	5	3	3	3	2	1	1	1	3	1	0	1			
合計		29	37	60	47	47	55	62	36	38	67	37	22	16			
1995		12月11日	12月18日	12月25日	1月1日	1月8日	1月15日	1月22日	1月29日	2月5日	2月12日	2月19日	2月26日	3月5日	3月12日	3月19日	3月26日
成鳥		6	51	37	44	44	48	35	20	46	53	50	55	23			
亜成鳥		2	16	13	10	11	10	8	5	10	11	10	8	5			
合計		8	67	50	54	55	58	43	25	56	64	60	63	28			
1996		12月5日	12月12日	12月19日	12月26日	1月2日	1月9日	1月16日	1月23日	1月30日	2月6日	2月13日	2月20日	2月27日	3月5日	3月12日	3月19日
成鳥		2	12	29	21	23	42	48	35	45	20	21	19	6			
亜成鳥		0	4	7	4	0	6	5	21	5	7	4	3	3			
合計		2	16	36	25	23	48	53	56	40	27	24	22	9			
1997		12月10日	12月17日	12月24日	12月31日	1月6日	1月13日	1月20日	1月27日	2月3日	2月10日	2月17日	2月24日	3月3日	3月10日	3月17日	3月24日
成鳥		8	24	13	37	30	41	4	1	4	0	6	7	1			
亜成鳥		0	2	1	0	5	1	4	1	4	0	6	7	1			
合計		8	26	14	37	42	31	45	53	8	10	12	14	2			
1998		12月5日	12月12日	12月19日	12月26日	1月2日	1月9日	1月16日	1月23日	1月30日	2月6日	2月13日	2月20日	2月27日	3月5日	3月12日	3月19日
成鳥		32	21	33	24	28	20	25	33	31	31	37	14	6	12	8	
亜成鳥		1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		33	21	34	25	28	20	25	33	31	31	37	14	6	12	8	
1999		12月6日	12月13日	12月20日	12月27日	1月3日	1月10日	1月17日	1月24日	1月31日	2月7日	2月14日	2月21日	2月28日	3月5日	3月12日	3月19日
成鳥		18	20	27	35	35	27	10	22	26	38	36	26	13	15	0	0
亜成鳥		1	3	1	2	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0
合計		19	23	28	37	37	28	10	23	27	39	37	26	13	15	0	0
2000		11月29日	12月6日	12月13日	12月20日	12月27日	1月3日	1月10日	1月17日	1月24日	1月31日	2月7日	2月14日	2月21日	2月28日	3月5日	3月12日
成鳥		9	17	22	30	23	19	24	24	18	23	25	18	26	8	12	0
亜成鳥		1	3	4	3	1	3	3	3	0	0	1	1	1	3	0	1
合計		10	20	26	34	24	22	27	27	18	23	26	19	29	8	13	1
2001		11月30日	12月7日	12月14日	12月21日	12月28日	1月4日	1月11日	1月18日	1月25日	2月1日	2月8日	2月15日	2月22日	2月29日	3月6日	3月13日
成鳥		12	20	20	17	13	20	13	24	25	22	23	10	9	9	5	5
亜成鳥		2	3	2	2	2	2	1	5	1	2	2	2	1	0	0	0
合計		14	23	22	19	16	22	14	29	26	23	25	11	9	9	5	5
2002		12月3日	12月10日	12月17日	12月24日	1月3日	1月10日	1月17日	1月24日	1月31日	2月7日	2月14日	2月21日	2月28日	3月5日	3月12日	3月19日
成鳥		4	4	21	18	15	19	22	24	27	23	26	32	24	33	8	0
亜成鳥		2	2	7	6	4	4	3	7	8	4	6	7	5	6	3	0
合計		6	6	28	24	19	23	25	31	32	27	32	39	29	39	11	0
2003		11月28日	12月5日	12月12日	12月19日	12月26日	1月2日	1月9日	1月16日	1月23日	1月30日	2月6日	2月13日	2月20日	2月27日	3月5日	3月12日
成鳥		2	18	16	16	19	15	15	15	10	13	13	2	7	16	6	6
亜成鳥		4	3	6	6	6	6	6	3	5	5	0	4	5	0	0	0
合計		6	21	22	22	25	21	21	18	18	18	18	2	11	21	6	6
2004		12月3日	12月10日	12月17日	12月24日	1月3日	1月10日	1月17日	1月24日	1月31日	2月7日	2月14日	2月21日	2月28日	3月5日	3月12日	3月19日
成鳥		4	1	11	12	24	21	22	18	28	23	24	23	21	9	27	1
亜成鳥		3	0	3	3	6	5	4	3	8	8	12	14	7	8	14	1
合計		7	1	14	15	27	27	26	21	36	31	36	37	28	17	41	2
2005		11月25日	12月2日	12月9日	12月16日	12月23日	12月30日	1月6日	1月13日	1月20日	1月27日	2月3日	2月10日	2月17日	2月24日	3月3日	3月10日
成鳥		0	0	16	6	6	6	8	8	15	15	8	32	24	33	8	0
亜成鳥		0	0	6	6	6	6	6	6	6	6	6	7	5	6	3	0
合計		0	0	22	12	12	12	14	14	21	21	14	39	29	39	11	0
2006		11月25日	12月2日	12月9日	12月16日	12月23日	12月30日	1月6日	1月13日	1月20日	1月27日	2月3日	2月10日	2月17日	2月24日	3月3日	3月10日
成鳥		0	23	15	18	11	23	24	10	18	14	20	13	18	3	12	6
亜成鳥		0	4	4	5	3	5	4	3	4	4	4	1	4	1	0	0
合計		0	27	19	23	22	28	30	10	19	18	22	17	22	4	12	6

図 7. えりも町内におけるオオハクチョウの越冬数記録(1993~2006年)



を休める群れも混ざることが考えられた。

1998年以降、越冬数が減少した原因としては、周辺地域（十勝川、様似川、静内川、新冠川など）での餌付けが推測できる。今後、餌付けを開始した時期、餌付けに集まるオオハクチョウの数の経年変化、気候の影響を考慮し、検討する必要がある。

5. 日高管内におけるオオハクチョウの越冬数について

北海道日高管内において、オオハクチョウに対する餌付けは、様似町様似川、浦河町向別川、同町元浦川、新ひだか町静内川、同町古川、新冠町新冠川で行われている。餌付けがなされていない地域も含め、各地における越冬数の調査記録を表3. に示した。

えりもではほとんど観察されない南下初期の11月上旬に様似川静内川でオオハクチョウが確認されている。要因の一つとして餌付けが考えられる。また、滞留期と考えられる2月から3月上旬においても、餌付けされている河川に集中していた。

餌付けがされていない幌別川では、2001年2月6日に41羽が確認されているが、同日様似川は結氷し1羽も確認されなかった。同年1月19日様似川39羽、幌別川0羽、同年2月13日様似川では54羽が確認されていることから、様似川が結氷したため直線で約7.5km離れた幌別川へ移動したものと推測できた。

北上期である3月中旬～下旬において、餌付けをしていないえりも地域で確認数が0羽となっても、餌付けしている様似川、静内川ではオオハクチョウが確認された。静内川は3月下旬には確認数が少なくなるが、様似川では4月上旬でも残ることが明らかになった。

日高管内の様似川、向別川、元浦川、静内川、古川、新冠川において、オオハクチョウは、餌付けにより誘引され、滞留期間が長期になっている。

このほか、日高管内近辺において、餌付けを行っているオオハクチョウの越冬地としては、十勝川、苫小牧市（日本野鳥の会ウトナイ湖ネイチャーセンターでは2002年ごろより水鳥への給餌はおこなっていないが、他民間施設が実施している。）などがある。

6. 害敵について

オオハクチョウの滞留する浜は、コンブ拾いをおこなう浜でもある。漁業者がコンブ拾いのために浜を歩くと、オオハクチョウは休息している小沢やその磯から、水面を泳ぎ、または飛行により、海上へ移動する逃避行動が観察された。

その他、キタキツネ、ノラネコの接近により上記同様の逃避行動が観察された。

7. 飛行速度について

2005年12月3日8時30分、油駒にて自家用車運転中に飛行中のオオハクチョウの群れ（成鳥6羽・亜成鳥1羽）が接近し、車と平行に飛行したので、車速度を飛行スピードにあわせるとおおよそ50～55kmであった。このとき襟裳岬における気象観測では、向かい風の北西の風秒速13mであった。

引用文献

三浦忠雄（1999） 新版「えりもの植物」pp400.

新版「えりもの植物」出版実行委員会. えりも町教育委員会.

中岡利泰・石川慎也・原芳明・宮本昌幸（2007） えりも町の鳥類相. えりも研究第4号. 13-39.

表3. えりも町および日高管内におけるオオハクチョウの越冬数

1997-1998

		1月31日	2月7日	2月15日	3月7日		
えりも	成鳥	52	50	40	2		
	亜成鳥	1	4	0	1		
		1月28日	2月7日	2月10日	3月7日	3月11日	3月28日
様似川	成鳥	25	26	31	30+	30+	10+
	亜成鳥	2	5	4			
幌別川	成鳥	-	-	-	-	-	10+
	亜成鳥	-	-	-	-	-	
元浦川	成鳥	-	-	-	-	-	10+
	亜成鳥	-	-	-	-	-	
静内川	成鳥	-	-	-	-	0	20±
	亜成鳥	-	-	-	-	0	
日高管内合計		80	85	75	33+	30+	50+

* 3月7日、11日、28日の確認数は移動中の車からの観察。

1998-1999

		11月27日	2月21日	3月4日	3月13日
えりも	成鳥	4	31	14	飛行確認
	亜成鳥	4	0	0	
		11月21日	2月19日	3月3日	3月12日
様似川	成鳥	-	30±	55	30+
	亜成鳥	-			
幌別川	成鳥	-	-	0	-
	亜成鳥	-	-	0	-
向別川	成鳥	13	-	-	-
	亜成鳥	0	-	-	-
元浦川	成鳥	-	-	11	-
	亜成鳥	-	-	4	-
静内川	成鳥	120	-	74	44
	亜成鳥	4	-	4	4
日高管内合計		145	61±	162	78+

1999-2000

		12月31日	3月7日	3月17日	3月25日	4月3日	4月18日
えりも	成鳥	35	10	1	0	飛行確認	飛行確認
	亜成鳥	2	0	0	0		
		12月31日	3月7日	3月18日	3月25日	4月5日	
様似川	成鳥	22	87	61	58	22	-
	亜成鳥	0	11	6	8	5	-
向別川	成鳥	1	-	-	-	-	-
	亜成鳥	0	-	-	-	-	-
元浦川	成鳥	0	-	-	-	-	-
	亜成鳥	0	-	-	-	-	-
幌別川	成鳥	0	-	6	-	-	-
	亜成鳥	0	-	0	-	-	-
静内川	成鳥	-	-	78	-	-	-
	亜成鳥	-	-	7	-	-	-
日高管内合計		60	108	159	66	27	

2000-2001

		1月19日	2月6日	2月16日	3月16日	3月30日	4月2日	
えりも	成鳥	24	18	25	12	0	飛行確認	
	亜成鳥	3	0	1	1	0		
		1月19日	2月6日	2月13日	3月13日	3月27日	4月3日	4月10日
様似川	成鳥	34	0	47	53	43	40	50
	亜成鳥	5	0	7	4	3	5	7
幌別川	成鳥	0	36	-	-	-	-	-
	亜成鳥	0	5	-	-	-	-	-
向別川	成鳥	17	-	-	-	-	-	-
	亜成鳥	7	-	-	-	-	-	-
静内川	成鳥	140	-	-	-	-	-	-
	亜成鳥	9	-	-	-	-	-	-
三石川	成鳥	0	-	-	-	-	-	-
兜舞川	成鳥	0	-	-	-	-	-	-
新冠川	成鳥	0	-	-	-	-	-	-
新冠川		結氷						
日高管内合計		239	59	80	70	46	45	57

2月2日～3日にかけて大暴風雪、北西の風、波5、吹雪。4日～5日にかけても風強く時化る。
様似川も結氷し、餌付けされていたオオハクチョウの姿なし。幌別川へ移動したと考えられる。

2001-2002

		12月28日	
えりも	成鳥	17	
	亜成鳥	2	
		12月29日	
様似川	成鳥	44	河口氷結
	亜成鳥	5	
幌別川	成鳥	0	
	亜成鳥	0	
向別川	成鳥	氷結	
	亜成鳥		
元浦川	成鳥	11	
	亜成鳥	4	
静内川	成鳥	69	
	亜成鳥	1	
古川	成鳥	-	
	亜成鳥	-	
日高管内合計		153	

2004-2005

		2月12日
えりも	成鳥	23
	亜成鳥	8
		2月12日
様似川	成鳥	103
	亜成鳥	18
元浦川	成鳥	44
	亜成鳥	3
静内川	成鳥	175
	亜成鳥	17
古川	成鳥	4
	亜成鳥	2
新冠川	成鳥	34
	亜成鳥	2
日高管内合計		433

2003-2004

		2月26日	3月25日
えりも	成鳥	2	7
	亜成鳥	0	4
		2月26日	3月25日
様似川	成鳥	36	95
	亜成鳥	1	9
幌別川	成鳥	6	3
	亜成鳥	2	0
静内川	成鳥	60	11
	亜成鳥	7	6
日高管内合計		114	135

2005-2006

		11月9日	12月26日
えりも	成鳥	飛行するも滞在なし	11
	亜成鳥		3
		11月7日	12月26日
様似川	成鳥	3	21
	亜成鳥		5
(エンルム海岸海上)			
幌別川	成鳥	-	7
	亜成鳥	-	2
元浦川	成鳥	-	27
	亜成鳥	-	4
兜舞川	成鳥	1	-
	亜成鳥		-
静内川	成鳥	13	23
	亜成鳥	2	5
古川	成鳥	-	11
	亜成鳥	-	7
日高管内合計		19	126